



令和4年度 宿利原小学校だより

宿っ子

8月号



学校のホームページは上のQRコードからお入りください



残暑お見舞い申し上げます

校長 有留 盛昭

「あなたにとって、大切な人は誰ですか。」今年の広島平和祈念式典では「平和への誓い」がこのような問いかけから始まりました。今年の発表は、本当の強さを持って、戦争のない平和な世の中を創りたいという思いがストレートに伝わりました。そして、「本当の強さとは、違いを認め、相手を受け入れること、思いやりの心を持ち、相手を理解しようとする事」の言葉が、とても印象的でした。



私たちは誰一人として同じ人はいません。見た目、考え方、感じ方、能力、似ている人はいても同じ人はいません。自分とは違う人と協力するから考え方が深まったり、できることが増えていきます。生まれた場所、育った場所、言葉、年齢、そして人種や宗教は違っても、みんな同じ地球に生まれ、地球で生活する仲間です。世界中から戦争がなくなればよいと心から感じる事ができた「平和の誓い」でした。

子供の頃、お盆が過ぎると、夏休みが残り少しになったような気がしてそわそわとし始めた記憶があります。どんな風にそわそわしているかというと、宿題がまだ（ほとんど）終わっていない不安感や焦燥感、そしてもっともっと遊びたくて休みが伸びればいいのかという現実逃避もありました。私の場合は、その後もテレビアニメ（夏は午前中に「海のトリトン」や「バビル2世」があったのです）を見て現実逃避、午後は外遊びに出て友達と互いに宿題やってない自慢。結局8月の最後の2日間はずっと机の前で終わらない宿題を前に涙していました。 ※なぜか友達ほとんどの宿題を済ませていました。



集英社新書（川島隆太著）「スマホが学力を破壊する2018年」

私たちの脳は快適な状況を求める傾向があります。それを制御して、正しい行動を選択(判断)させるのは、前頭葉と呼ばれる部分です。前頭葉は、思考、判断、情動のコントロール、コミュニケーションなどを司っています。まさに、今学校が子供たちに育てようとしている部分です。この前頭葉は、5歳くらいから発達が始まり、20～25歳くらいで完成すると言われています。また、老化による機能低下も早いと言われています。前頭葉が未発達の子供たちが正しく判断できないことには、理由があるのですね。（だからこそ、声かけを）



新潮文庫(アンデュー・ハンセン著, 久山葉子訳「スマホ脳2020年」アンデュー・ハンセン著「最強脳2021年」アンデュー・ハンセン著)

右の写真にある書籍には、脳の発達や機能についてスマホの利用と関係付けて書かれています。スマホを日常的に使うと脳の発達(脳の大きさや神経細胞のつながり)が停止する傾向がある。また、スマホを日常的に使うと(SNSやゲーム、YouTubeなど)過度なストレスがかかり、人間特有の高度な脳力(思考や集中など)が発揮できなくなるばかりでなく、長期記憶や作業記憶が働かなくなる。科学的な根拠や統計としての信憑性はわかりませんが、便利なスマホも娯楽を目的に使用すると害悪になることは間違いありません。特に、子供への影響は大きいようです。脳に一番よいのは、汗をかくくらいの運動と、読書(書籍)の習慣だそうです。